



中嶋嶺雄東京外大教授

迷っている。一つの理由は経済成長を上回る人口の増大だ。一年に千五百万から千六百万人が増えている。公式発表は十一億人だが、十二億か十三億人が実態だ。

インフレもある。第一、四半期の物価上昇率は二八％という。これは公式発表で、ウラがある。中国の価格は公定と、自由の二重構造になっており、需要のある自由価格の

衆の不満を象徴していた。鄧小平の長男鄧撲方は身障者福利基金の副理事長などの肩書を利用して私財を蓄え、娘や娘婿も国家の主要なポストに座っている、と壁新聞が指摘していた。その他の幹部も同様で、学生に理解を示した趙紫陽も例外ではなかった。

こうした中で胡耀邦が亡くなった。中国の現状を憂い演

彼の死を悼んだ行動から大きな運動になっていった。政治局会議は自由化を求めるデモを動乱と規定した。

五月四日、北京でアジア開発銀行の年次総会が開かれ、この席で趙紫陽は「学生たちは将来を背負う者たちで、彼らの行動は動乱ではない」と評価し、後で追及されることになる。ゴルバチョフ書記長が訪中し、鄧小平との会談で

つて、これも中国の最高機密を漏らした、という罪状に挙げられているが、この時、彼は鄧との決別を意思表示したと見ている。

デモは百二十万人の規模に膨れ上がり、六月四日の事件へと進むが、当時の事情を伝える資料などを読むと、一時は二重政権的な大変な状況だったようだ。しかし、天安門に残っていたのは、わずか三千人程度だったのに対し、十万人の兵力が突っ込み、周辺には三十五万の正規軍が展開していた。いかに深刻な事態だったかが分かる。

中嶋嶺雄氏講演要旨

佐賀政経懇話会

まず、天安門事件で一体どれだけの死者が出たのか。六月四日から五日までの二日間で、三千七百人の死者と見るのが正確だろう。負傷者は約九千五百人。

この推定の根拠の一つが、中国紅十字会が混乱の直後に、二千四百人ぐらゐが死んだと言っていたこと。また、北京放送で、四千人が死亡したと伝えたアナウンサーがそれを最後に姿を消している。香港では六・四大屠殺（ときつ）という言葉とともに六千人、北京大学の壁新聞が四千人、台湾当局が三千八百人と、それぞれ伝えている。これらを総合すると、三千数百人が犠牲になったのは間違いない。

四月十五日の胡耀邦（元総書記）の死が事件の契機だが、これはきつかけであつてもすべての原因じゃない。どこに火を付けても、すぐに燃え上がる不満やいらだちが充満していた。

中国は開放と改革を進めてきた。変わったのは事実だが、良くはなっていない。一人当たりGNPは三百が前後を低い方は当然高くなる。五〇％から六〇％も高くなつていこう、全くの経済破たん状態で、国民生活は大変厳しいものになつていける。

この一方で、共産党幹部の腐敗がすごかった。デモの中で叫ばれた大きなスローガンの一つが「一人治でなく、法治を」だった。「官倒」という言葉は官僚による不正を示したもので、「太子党」は一族優遇の状況を指している。一般民

説をしていた時に倒れ、しばらくして死亡した。葬儀は形の上では盛大だったが、幹部の声明などは冷たく、再評価もしなかった。この時、もう少しねんごろにやつておれば、これほどの事態にはならなかつただろう。

中国は建国四十年、五・四運動七十年の節目の年で、シヤナリストたちの政治改革を求める署名運動も行われていた。大学生が花輪を置き、

中ソ和解を実現する。しかし、学生たちは国家元首でも党の総書記でもない鄧小平が国を代表してゴルバチョフに会ったことをおかし、と指摘した。一番痛いところをつかれた鄧小平は、彼らを「反革命」として弾圧に乗り出す。

趙紫陽がゴルバチョフと会った際「中国のすべての決定は鄧小平にゆだねられている」と、テレビの前でしゃべ

かと言え、今の体制は五年もたないのではないか。鄧小平が生きている間はなんとかもたせようとするだろうが、国家財政は、毎年ばく大な赤字を出している。税収も外貨の獲得も当分は期待できない。

十年か十五年後には共産党体制は崩れていくだろう。十億にもなるうという人口を支えていくには、共産党の体質は古過ぎる。中華思想、事

大主義を直さないと中国は生判がいいということだが、多
きていけない、という声が出 くの中国人から指弾されてい
てきたことは注目すべきだ。 ることも頭に置き、日本も言
中国の当局者には、宇野首 うべきことはきちんと言わな
相は、金日成主席に次いで評 ければならない。

.....
講演を聞いて
.....

日中貿易縮小

しつかりした

佐賀にも痛手

世界観が必要

香月 義人氏(73)

七田 利秀氏(49)



中国問
題に非常
に詳しい
とは聞い
ていた



詳しい
情報を基
にした講
演で、非
常に興味

が、驚くほどのもので大変興
味深かった。想像していた通
り、やはり中国の将来は難し
いという印象だ。インフレは
さらに高進するだろうし、経
済が行き詰まる。内在する政
治的な問題も簡単には変化し
ないだろう。日中貿易は大事
だが縮小する。佐賀にも痛手

深く聞かせて頂いた。十一億
を超す人を束ねていくのは大
変だと思いが、長期政権が統
くところなことになるのか、
と日本の政治のことも考えた
りした。隣国としての日本は、
しつかりした世界観、ポリシ
ーを持って中国とつきあって
いくべきだ。

(佐賀銀行会長)

(天山酒造社長)